

大和と零戦

大和とは、極秘のうすに呉で造られ、世界最大の主砲である、46 cm砲をつんだ、これまた当時世界最大・263 mの戦艦のことである。この大和は当時の世界最先端の技術でもって造られた。水の抵抗を減らす独特な構造や、42 km先まで飛んだ46 cm砲、さらに航空機を飛ばすカタパルトという発射台は、今日でもその技術が応用されている。

しかし、1945（昭和20）年4月5日、大和は沖繩海上特攻命令が出され、翌日、沖繩へ出航中に九州南西沖の海上にて米海軍空母機多数の攻撃を受けた。そして応戦の末、多数の魚雷・爆弾の命中により沈没した。

零戦とは、零式艦上戦闘機の略称で、まさに日本の技術の結晶だった。当時世界最高の動力性能を誇ったといわれている。そんな零戦を造っていたのは三菱であり、後に中島飛行機（現・スバル）も大がかりな工場を持つており、たくさん生産するこゝろか可能になった。

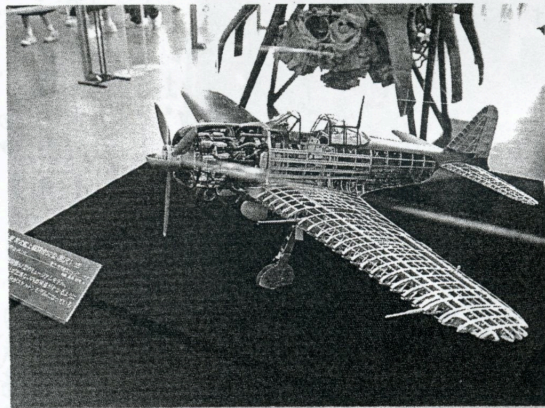
零戦は特攻の際にも使われ、特攻隊員が乗り、敵の戦艦めかけてつっこんでいった。ただ、実際に敵の戦艦まで辿りつけたのは極わずか。残り撃ち落とされてしまった。又、米B29ない、零戦よりはるかに高パワー・高性能な航空機の誕生により、次第に零戦は非力な勝てない戦闘機になつてしまった。

OHV星型14気筒

右の見出しに記したのは、零戦に使われたOHVエンジンの型式である。OHVというのは、混合気の吸入及び燃焼ガスの排出方法を示したものの。星型というのには、シリンダーの配置の仕方、そのシリンダーが14個あるから14気筒。このエンジンは、排気量を2730ccで1130馬力を発生させる。車やバイクの排気量とは桁違いの排気量といえる。よってパワーも1000馬力を超える。

但し効率が悪かった。重さの速い、そして何よりも時代が違ふが、車やバイクよりも、排気量の割にパワーが小さい。これは仕方のないことなのだ。

それでも、小さく、軽く、小回りのきいた零戦は、当時（特に、戦争始まつて間もない頃）とても高性能だった。これは、昔からの日本の技術力の高さを証で、現代のものづくりにも続いている日本の技術力の高さは、日本入として誇り高いことだ。



▷零式艦上戦闘機六二型

空機、そしてエンジンを造れなかつたのだらうか。……だがそれも不可能なことだつたのだらう。戦局は悪化し、再開発をしていく時間も人手もなかつたのかも知れない。

一方、大和の主砲・46 cm砲は42 kmを90秒で飛んでしまふ。なんと、発射された時の速度は、秒速700 mだつたというから驚きだ。この他にも、54 km先まで見える八八式三型潜望鏡や、世界初の翼のついた潜水艦・海龍なんかもある。当時の日本の技術力の高さが伺える。

広島に行つて学んだこと

広島研修で、色々なことを学んできた。戦争の悲しさを、核の恐ろしさ、平和であることの有難さ……。これまで書いてきたものは全て、敵を倒すために総力を上げて造られたものだ。いづれも戦争の為に造つてはならないものだ。だが、ものか悪い訳ではない。それを生み出した人間、それを戦争に利用した人間が悪いのだ、ということも忘れてはならない。

そして存知の通り、広島にはマツダという自動車会社がある。マツダは自身も原子爆弾の被害に遭い、避難所としての役目をしてきた。それが今では、いたるところで見かけるマツダ車。そんなマツダのように、人々の幸せ・平和を創るものづくりをしていかなければいけない。

ものづくりの技術

前述したように、日本は当時最先端の技術を持つていた。だからこそ、当時の零戦の非力さが疑問でしかないのだ。米B29は2000馬力、対する零戦は1130馬力。今に続く、日本のものづくりの技術を持つてすれば、はるかに良い航

特攻隊員が 残したものの

戦艦大和

戦艦「大和」は今から七十五年前、広島県呉市で極秘で作られました。外国から船を買って、その技術を学び、さらに発展させた当時世界最強の戦艦「大和」が誕生しました。全長二六三メートル、高さ五一メートル、幅四一メートルの船体が、大和には重き、人よ七、四六の砲、四二の機、世界にも類をみない大砲が、四二ありました。また、当時海蔵庫は無かったのですが、大和には三千人分の一日分の食料が入る海蔵庫がありました。また、大和から戦闘機を飛ばすためのカタパルトは、現在新幹線の台車の原形となっています。このように、戦艦「大和」は当時の技術を駆使して作られた世界最強の船であり、その技術が現在にもつながっているのです。

大和の最後

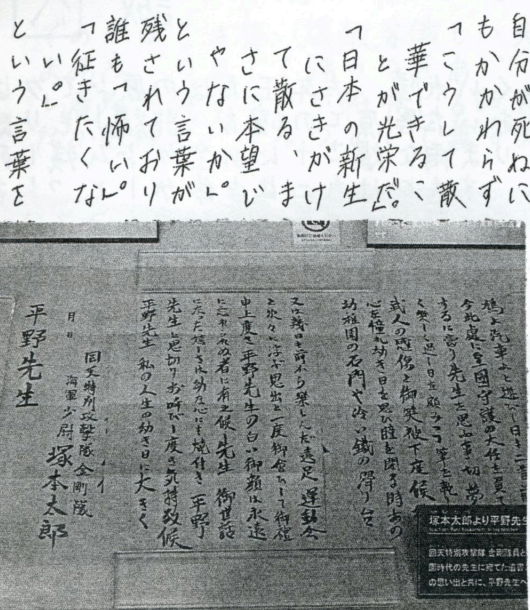
戦争が末期になつてきた、昭和二十年（一九四五年）四月五日、当時世界最強と言われ、戦うために作られた戦艦「大和」は、沖繩海上特攻の命令が下ります。護衛する航空機もなく、大和は七隻の駆逐艦に二隻の護衛隊を率いて、大和は七隻の駆逐艦に上陸した沖繩へと向かいます。そして、昭和二十二年四月六日沖繩に向けて徳山を出航した大和は、戦いの末、多数の魚雷、爆弾の命中により、十四時二十三分に沈没しました。乗組員三三三三名、うち生存者は二七六名、三〇五六名の尊い命が失われました。大和は現在も水深三五〇メートルの海底に眠っています。

特攻機

太平洋戦争では、戦艦大和以外にも、人間魚雷「回天」を使った特攻や、零式艦上戦闘機「ゼロ」を使った特攻が行われました。人間魚雷「回天」は、コックピットがとて小く、人間一人が寝そべるように操縦席に座り、四日間一睡もせぬ操縦が続けられました。回天では、身動きが全くと取れないため、トイレは操縦席の下にそのままついており、少量の食糧物が手に取れる場所においてありました。他にも、特攻により、20歳前後の若い人が何千人も亡くなりました。もう、こんな悲しいことは絶対に繰り返してはいけないのです。

特攻隊員が残したものの

大和乗組員達や、「回天」、「ゼロ」戦で特攻で亡くなった方達は、家族、恋人、先生など、自分の思いを手紙、遺書、レコードなどに託し、出撃していきまされた。遺書には、感謝の言葉、思い出などが留められていきます。特攻隊員の方々は、自分が死ぬに覚悟がわかって、心から散らさず、華やかに散らさず、と光栄に日本を新生にささげ、まて散る、まさに本望いやないか。という言葉が残されておられる。誰か「怖い」といふ言葉と



残していません。また、出撃前の塚本太郎さんが残した、肉声のレコードの遺言では、捧げよう。中略。おやじの、おじいさん、おっしや、おじいさん。今の私達には計り知れないような恐怖や苦しみを、辛さが伝わってきて胸が押し潰さそうになります。一生懸命に生きて、本当の自分の気持ちを振り切り、表面上だけでも自分を納得させるためには、特攻で死ぬることこそ光栄に思っています。また、塚本太郎さんの肉声の遺言で、「おんね、さようなら！。元気で征きます。という言葉が忘れられない。このように特攻で亡くなった人がたくさんいる。それが戦争であることを忘れてはいけません。そして過去にこのように「戦争」があった、今の私たちが生きていくことにも自覚しなければいけないと思います。

亡かれな、ため

私達は、二日間の広島研修を通し、「戦争」と「平和」について深く考えることができました。私達が今、当たり前にご飯を食ったり、学校に行ったり、家が、たりすること、日本が「平和」だからできる、ということに気がつくことができました。過去の戦争で、たくさんの方が恐怖を感じ、苦しめ、辛い思いをされました。特攻に、大人達も、決していきたくて、たわけではなく、未来「日本」の平和を築いていくため、そして、今の私たちが生きていくために、願いがあつたのだと思います。私達は、その思いを受け継ぎ、「平和」をつなげていかなければいけません。だから、一人一人が「平和」について考え、過去について知ることで、感じることがあることが大切だと思えました。そして、過去に「戦争」を築いていくと思えます。と、未来の平和を築いていくと思えます。

原爆を知らない人達へ

原爆について

原爆というものをみなさんは知っていますか。原爆とは第二次世界大戦で使われた爆弾です。原子の中心にある原子核が壊れることも核分裂といい、それがごく短い間に広がる瞬間的に強大なエネルギーが生まれます。それを利用した物が原爆です。ドイツやアメリカが研究をしていて、一九四二年には製作準備が始まりました。その後一九四五年七月一六日には初めて実験に成功しました。そして一九四五年八月六日に広島、八月八日に長崎に投下されました。それはアメリカが原爆の威力を正確に測定できるように、直径約四・八キロメートル以上の市街地を持つ都市を目標にし、広島には連合国軍の捕虜収容所がないと思われていたからです。そして原爆は目標を目で確認してから投下することになった。お

り、六日の広島は晴れていて、それが可能だったのを投下されました。爆心地は島外科内科という病院の六〇〇メートル上空で、半径二キロメートル以内



は即死で、建物は木造の物は全焼でコンクリートの物も少し破壊しました。それでも残っていた建物もあり、それが原爆ドームと元大正屋呉服店という店です。原爆ドームは、上からの衝撃をドーム状の部分か受け流したとされます。呉服店は、全体的にコンクリートで造られていたためたどたどされていません。死者は現在も正確にはつかめていません。市ではその年の十二月末までに約一四万人が死亡したとされています。

原爆はその後も放射線が白血球や人体障害などをひき起こし、放射線がふくまされた雨を降らせました。これを黒い雨といわれています。当時は水を求めていた人が多くあり、この雨を飲んだ人は三ヶ月下痢に苦しめられました。

平和記念公園

この公園には、平和の鐘や平和の池、慰霊碑や平和の灯などの様な物があります。平和の鐘は一九六四年に造られました。この鐘の音は外と内とで異なります。またこの鐘には世界地図が彫られていて、国境がありません。これは世界は一つというメッセージだそうです。平和の池には原爆で死んだ人々の慰霊碑があります。そこには一〇九冊の名簿があります。二九七六八四八人の名前が書かれています。そのうち五三三九人は二〇一五年で死亡した人だそうです。平和の池には平和の灯という物があります。これは台の上で火が燃えており、火は核兵器を表し台は手をイメージした形です。この火は核兵器が無くならない限り燃え続けます。雨が降っても園がふいても消えませんが、ここには被爆したアオギリという木や、珍しい形をした相生橋や、平和の時計塔などがあります。この時計塔は毎日八時十五分になると音が出ます。

平和記念資料館

感心

平和記念資料館は平和記念公園の中にある建物です。中には被爆者の人形や映像や写真があります。一番最初に思い出す物は、八時十五分止まった時計です。爆発した時の熱風や衝撃が瞬間的に壊れるそうです。また、具がわからなくらい黒くなつた弁当や、一つにくっついてしまつた硬貨や、被爆者が身につけていた服やくつが残りました。他にも三輪車や学生証などの身近にあるものもありました。写真やパネルを見た時はショックを受けました。本当の写真が信じられないほどでした。

僕はこの広島研修を終えて、自分は原爆に無知な事を知りました。自分では色々知っていたかと思つていたけれど、平和記念資料館や記念公園やガイドさんの話を聞いたりして、知らなかつた事はかり教えてもらいました。原爆の子の像の話や当時の広島の様子をひざまむまで、すごく勉強になりました。二日間でした。平和記念資料館で写真やパネルを見て、原爆は二度と使つてはいけません。平和を願う物だと思つてはいい。一度にたくさんの人々の命をうばつた兵器に怒りを感じました。当時の広島の人達もそうだったと思います。でももしまた戦争がおこつたらと思つて悲しくなりました。でも、いつかは核兵器がない世界がくると思つています。それだけでも、原爆のおそろしさと起つた悲しい出来事はいつまでもわすれたいと思つています。

戦艦「大和」の

歴史を未来へ

戦艦大和のまち

戦艦大和を建造した東洋一の軍港として栄えたまち、呉は、戦後、戦前から培われてきた技術が新しい技術と結びつき、世界最大のタンカーを数多く建造するなど、日本が戦後約10年ほどで世界一の造船国へ発展する一翼を担いました。その後、有数の臨海工業都市として発展し、地域の産業発展だけでなく、日本の近代化に大きく貢献しました。

戦艦大和の特徴

戦艦大和の全長は233m、高さ57m、幅38.9mで、イギリスから買って来た金剛を参考にしてつくられました。大和は極秘でつくられ、乗組員は300人です。大和の主砲の弾は42km飛び、世界最大の16cm砲重さ146トンです。時速57kmで進み、重さは2800トンです。司令塔には厚さ50cmの鉄を使い、集中防御しました。浸水しても他区画に拡散しないよう、部屋がたくさんあり、絶対沈まない不沈戦艦といわれています。建造費用は1億3700万2000円で、現在のお金でいうと3兆円です。世界最大、最強の戦艦といわれた大和は、今もその技術が使われています。

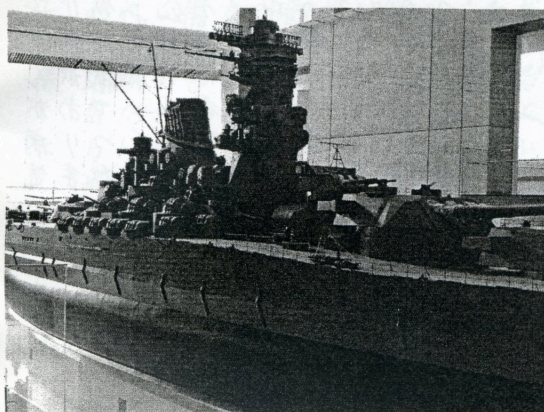
戦艦大和の歴史

戦艦大和は、昭和20年4月5日に沖縄海上特攻の命令が下され、アメリカ軍が上陸した沖縄へと向かいました。援護する航空機もなく、大和の他にも9隻の駆逐艦など第2艦隊約7200人は沖縄へと向かいました。

そして、昭和20年4月6日、沖縄に向かっていた大和と第2艦隊は7日に九州南西沖の海でアメリカ海軍に多数の攻撃を受けました。大和は応戦しましたが、多数の爆弾の命中などにより、午後2時23分に沈没しました。生存者は276人、308人の命が失われました。大和は今も水深350mの海の底にあります。

戦争に使った特攻

戦艦大和の他にも、戦争で使われた特攻はたくさんあります。人間魚雷も使われ、65kgの爆弾がつけられていた。棒でつつかまします。この特攻は、訓練から死者が多かったです。



感想

他にも、零式艦上戦闘機、ゼロ戦もありました。ゼロ戦は、翼の一部が布になっており、人の命よりも飛行機の性能を重視していました。約400人がなくなり、4割が20代でした。

私は、広島研修でたくさんの方と話を学びました。今までも、戦争について学ぶ機会はありましたが、こんなにも深く平和について考えたことはありませんでした。戦争で、広島にいた人はたくさん被害を受けて、苦しかた。特攻で命を失うことになる人も、その家族も苦しかた。ことに気付くことができませんでした。大切な人と別れる辛い気持ちを振り切った。特攻で死ぬことを覚悟しなければならなかった。特攻は、本当に残酷なことだと思えます。特攻に向かう乗組員も、戦争で得られるものは何もないと分かっていた。向かわなければならなかった。本当に辛いと思います。もう二度とこんなことがないようにと思います。戦争に使われた色々な特攻で、訓練からたくさんの方の命が失われて、その頃の日本は人間の命をかるく考えていたのだと思います。それは、本当に悲しいことだし、許せません。国が戦争をして苦しんでいる人がたくさんいます。私達が毎日、何事もなく平和に生きていくことが当たり前ではなく、生きたくても、生きることができない人が大勢いることを知っています。今生きていくことは、とても幸せなことだと気付くことができませんでした。一日でも早く世界中の人が笑顔になればいいなと、心から願っています。

平和を願って

平和記念公園

平和記念公園で、いろいろな慰霊碑などを見ました。その慰霊碑などには平和を願う気持ちやさまざまな思いが込められていました。

原爆の被害

一九四五年八月六日、午前八時十五分。

広島に原爆が投下されました。爆発の瞬間強烈な熱線と放射線が四方へ放射されるとともに、周囲の空気が膨張して超高圧の爆風となりました。強烈な熱線によるやけど。または、一瞬で消えてしまふ人もいました。さらに、火災もおきました。火災により、爆心地から半径二キロメートル以内の地域はことごとく焼失し、倒壊した建物の下敷きになつて生きながら焼かれ、七くなつた人も数知れません。爆風では、建物も倒壊し、人々は吹き飛ばされ、即死した人、負傷した人、倒壊した建物の下敷きになつて圧死した人も相次ぎました。原子爆弾では通常の爆弾では発生しない大量の放射線が放出されました。爆心地から約一キロメートル以内には死者は夥しく受けて、その多くは数日のうちに死亡しました。また、外傷が全くなく無傷と思われた人々も、被爆後月日が経過してから発病し、死亡した例も多くなりました。さらに後障害もひきおこされました。原子爆弾による放射線は、被爆直後の急性障害、発熱、はきけ、下痢などだけでなく、被爆後五、六年が経過した頃から白血病患者が増加し、その後、甲状腺がん、乳がん、肺がんなど悪性腫瘍の発生率が高くなり始めました。このように長期にわたつてさまざまな障害を引き起こし、被爆者の健康を現在もなお脅かし続けています。原爆によつて亡くなつた人の数については現在も正確につかめていませんが、広島市では一九四五年十二月末までに、約十四万人が七くなつたと推計されています。

原爆ドーム

原爆ドームは現在世界遺産に登録されています。登録名は「ヒロシマメモリアル」と言います。原爆ドームが世界遺産に登録される以前に、「戦争を思い出すので保存すべきではない」との意見もありました。ですが、一人の高校生の日記がきっかけで永久保存することになりました。その日記は「原爆ドームの痛々しい姿が戦争のおそろしさをうたえてくれるだろう」というものでした。平和な今を築きあげていこう、戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを忘れてはいけないという思いをうたえてくれるのが原爆ドームです。

平和の鐘

銘は「悲願」といい、亡くなつた方が平和を願つていこうという意味が込められています。平和の鐘はその形など全てに意味があります。鐘の表面には宇宙をイメージしたドーム型、鐘の表面には国境の無い世界地図が描かれ、鐘をつくための撞座には核兵器を打ちこわしたいという思いから原子力マークが刻まれています。原子力マークは五角の反対側はつく人の心を映す鏡をイメージしてあります。鐘の周りには蓮池があります。これも、原爆で被爆した人々かその火傷の苦しみをハスの葉で包んでいよそうとした事からなのです。平和の鐘は平和とそれを願う人の心と戦争の犠牲者への鎮魂の心か込められています。

原爆の子の像

三脚のドーム型の台座の上に少女の像が立っています。この少女は佐々木禎子さんかモテルであると言われています。佐々木禎子さんは二歳のときに被爆しました。その時は外傷もなく元気に成長しました。しかし、十年後の小学六年生の秋に突然白血病を発病し、八ヶ月後の十月に七くなりました。佐々木禎子さんは鶴を千羽折ると病気が治ると信じ闘病期間中に装紙などで鶴を折り続けたと言われています。像の少女佐々木禎子さんが捧げ持っていたのは折り続けたという鶴をかたどつたものです。像台座の下に置かれていた石碑には「こ水はほくらの叫びです、これは私たちの祈りです、世界に平和をきかすための」と刻まれています。原爆で亡くなつた子どもたちの平和への祈りが込められています。

感想

私は今まで平和について何も考えてはいませんでした。それは、平和なのかな？ 今の研修で戦争のおそろしさや非難さ、平和のありかたを学び、そして平和について考えることができました。また、平和記念公園内にある慰霊碑などの一つ一つにさまざまな思いや意味、平和を祈る気持ちか込められていることを知り、現在はまだ平和な世界とはいえませんが、何となく平和な世界にしたいか思っています。平和の原点は人の痛みを知ることか思っています。ランティアさんか贈つてくれた言葉です。この言葉かとても胸にひびきました。この言葉の通り、人の痛みを知ることか思っています。平和な世界か実現するまで、私は平和を願ひ続けていきます。

歴史を 未来へ！

広島に起きた非心劇

一九四五年（昭和二十年）八月六日午前八時十五分。アメリカのある攻撃により、一瞬にして多くの尊い命が失われた。それだけではない。物や心、人の未来さえもそのたった一瞬で、すべて奪われてしまったのだ。その恐ろしい兵器こそが原爆である。

原爆とは...

広島に落とされたのは通称「リトルボーイ」という一見かたいらしい響きの爆弾であるがこの爆弾は当時の人口三十五万人のうち約十四万人の命を奪ったのだ。ウランを材料とし、百万分の一秒という極めて短い時間に核分裂を連続して起こし、膨大なエネルギーが放出された。爆発の瞬間、強烈な熱線と放射線が放出されることにも、周囲の空気が膨張し爆風となった。そして爆発したのは市街地のほぼ中央だったことから、被害は市内の全域におよび、建物の九割以上が破壊、または焼失した。

私達は実際に平和記念資料館の館内で原爆によって形が変形してしまつた数々の物を見ました。その内、瓦のような普通な物や巾着が手に残らないかたい物もあり、すべて歪な形状をしていたので、原爆の威力の大きさを肌で感じさせられました。

放射線による被害

原爆の恐ろしさはそれだけで終わらなかつたのだ。これまでの大衆を爆発させる爆弾とちがうのは、エネルギーがケタはずれに大きいこと、放射線を出すことだ。

「初期放射線」は原子爆弾が爆発したときに発生した。これか人の体に大きな被害をもたらしすことになった。特に、爆心地から約一キロメートル内にいた人は致命的な影響を受けた。また、外傷が全くなく無傷だと思われた人々が、被爆後数日を経過してから発病し、死亡した例も多く存在する。

さらに原爆は、長時間にわたって「残留放射線」を地上に残した。このため、肉親や同僚などを捜して被爆後に入布した人々の中には、直接被爆した人と同様に発病したり、死亡する人もいた。また「黒い雨」と呼ばれる爆発により巻き上げられた粉じんなどを含む雨が広島市とその周辺の地域など広い範囲で降った。この雨の中には強い放射線物質が含まれており、この地域で井戸水を飲む人々の多くは、その後三ヶ月にもわたって下痢をした。



平和記念公園について

一日目に訪れて、多くの慰霊碑や平和を象徴する像を見てきました。そこは今、被爆後七十年は生えないうちと言われた木々が生え、過去に原爆が投下されたと思えないほど豊かでした。しかし公園内やその近くに建っている原爆ドームは原爆の恐ろしさを物語っています。戦争の悲惨さを感じさせられました。その中でも一番強く印象に残ったのは原爆死没者慰霊碑でした。公園を案内してもらったガイドさんによると、周りにある水は平和の池と呼ばれ、熱い思いをしなから七十年たつた方々へ水を飲んでください。また、平和の鐘については、鐘が響かせる音によって平和を願う人の心に響いてほしいという思いがあるそうです。鐘の表面には世界地図があり国境は描かれておらず、仲良く生きようという思いが込められていいるそうです。

広島研修を通して

私は今まで「戦争」というものを怖いと感じ、知らずにはしゃべっていました。しかし今回の研修を通して私たちが日本人は戦争から目をそむけずに向き合わなければならないかと思ひました。現地のガイドさん達の心から平和を願う、そのことを未来へ伝えていきたいという思いを強く感じました。広島へ行き多くの事を学びました。公園内の物はどれも強い思いや願いが込められていて言葉では言い表せないほどの大きな悲しみを感ぜました。戦争はいけないこと、原爆を繰り返してはいけません。今を自分自身心の底から強く思いました。今の自分には何もできませんが将来、平和な未来を作っていく一人になりたいと今回の研修を通して感じる事ができました。

平和を繋ぐ

へ原爆の恐ろしさを

みなさんは川にまぐさ入って水がほし
 と思つたことはありますか？今、この平和
 の時代はお金を出せば水だけじゃなく、お茶
 やジュースを当たり前前に買う事ができます
 普段私達が当たり前前にしている事を被爆当
 時の人は願つても叶えられなかった、そ
 んな時代でした。

一九四五年八月六日、午前八時十五分。
 広島は日本初めで初めて、世界で初めて原
 子爆弾による被害を受けました。原爆は一
 瞬にして街を破壊し、多くの人々の命を
 奪つていきます。なぜなら原子爆弾が爆発
 する瞬間、強烈な熱線と放射線が四方へ
 放射されるとともに、周囲の空気が膨張し
 て超高圧の爆風となり、これら三つが複雑
 に作用して大きな被害をもたらしたからで
 す。また原爆による被害の特徴は、大量破
 壊・大量殺りくが瞬時に、かつ無差別に引
 き起こされたこと、放射線による障害がそ
 の後も長年にわたり人々を苦しめたことだ
 す。

佐々木植子さんも原爆による被害を受け
 た一人です。植子さんは二歳の時に、爆心
 地から約一、六キロメートル離れた楠木町
 で被爆しました。無傷でしたが、その後、
 運動会がひらけ、選手として活躍するほど
 元気で活発な少女に成長しました。ところが
 が、小学校六年生の秋から徐々に体調を崩
 し、翌年の一九五五年二月、白血病と診断
 されました。折り鶴を千羽折れば病気が
 治ると聞いた植子さんは、薬の包み紙は
 すべて鶴を折り続けました。その願いも叶

へ平和を守るため

平和記念公園にある「原爆の子の像」は
 一年間に約千万羽の折り鶴が、さざげられ
 ています。この像は植子さんの悲しい知ら
 せを聞いた同級生たちが中心になって、植
 子さんを助け、原爆でなくならなうと願
 った方々を慰め、平和を守るための記念
 として、各地から寄せられた募金によつて
 作られました。

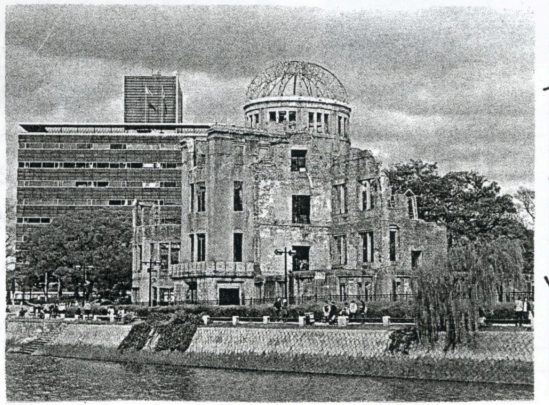
また、すべての核兵器と戦争のない、ま
 ことの平和共存の世界を達成することを目
 指し、その精神文化運動のシンボルとして
 「平和の鐘」が作られました。鐘の表面に
 は「世界は一つ」を象徴する国境のない世
 界地図が浮き彫りされています。それから
 鐘の周囲には「八つが植えられています。こ
 の八つは被爆当時、黒い雨から身をを守るに
 めに傘として使われたり、傷をおいた火傷
 の痛みをしのいだと言われています。

さらに慰霊碑の奥には「平和の灯」があ
 ります。これは世界中の人々の手が重なっ
 ているのをイメージした手の形を、ほんのこ
 づいた台の上で炎が燃えています。ほんのこ
 の炎、雨が降ったり風が吹いたりしても消
 える事はないので、なぜならこの炎は、
 核兵器を廃して、地球上から核兵器が
 なくならなければ火を消すからです。つまり、
 まだ炎が燃えているという事は、この地球
 上に核兵器が存在しているのです。

また「世界へ核兵器反対」を伝えるた
 めや、広島への悲劇をもう一度繰り返してほ
 しくないという思いが、原爆の恐ろ
 しさをなくさんの人に知ってもらうため
 に決まられました。

へ平和な世界へ

平和記念公
 園を訪ね、平
 和の鐘を鳴ら
 しました。そ
 の鐘の音を広
 島から世界の
 すみすみまで
 響き渡らせ、
 一人一人の心
 に染み渡る事
 を願っています。



また、広島
 の悲劇・あや
 まちをもう一
 度繰り返さな
 いようになら
 うと強く思いま
 した。

それから、ガイドボランティアさんの
 お話に、原爆が投下された三日後に広島
 の路面電車が動き出したというのがあり
 ました。そのお話を聞いた時、私は日本
 の温かさと優しさを感じました。私に日本
 からはもうわたくしは、お金のない人
 から原爆が落とされてすぐ、動き出した
 からです。

最後に、二日間の広島研修を終えて原
 爆は人の命だけでなく、夢や願いまでも
 うばつてしまふ恐ろしいものだと改めて
 感じたと共に、資料の一つ一つに人々の
 悲しみや怒りが込められていて、核兵器
 のない平和な世界を実現しなければと思
 いました。少しでも早く核兵器を廃絶さ
 せるため、今この時代に生きる私達が、
 核兵器のない世界を実現しようとする強
 い意志を一人一人持つ事が、平和に繋が
 る第一歩だと思います。